

(参考資料2)

令和元年8月20日

(2019年)

吹田市長 後藤 圭二 様

地方独立行政法人市立吹田市民病院評価委員会

委員長

高杉 豊

地方独立行政法人市立吹田市民病院 平成30年度の業務実績評価に係る意見について (答申)

令和元年8月20日付け元吹健地第673号にて市長より諮問のありました標記のことについて、下記のとおり答申いたします。

記

地方独立行政法人市立吹田市民病院平成30年度の業務実績に関する評価結果(案)については、妥当であると判断する。

なお、今後の病院運営に当たっては、以下の意見を踏まえつつ、市立病院としての役割を確実に実施し、地域に必要な医療を継続的に提供されたい。

1 救急医療について

平成30年度の年度評価としては、新病院への移転制限があったことを踏まえても、時間外救急者搬送受入率及び受入件数ともに目標指標を達成していないことから、評価「2」(年度計画を十分に実施できていない)が妥当であると判断する。

救急患者の受け入れは収益の確保につながるものであることから、引き続き救急搬送患者の受入体制の充実に向けた取組を実施していただきたい。

なお、2024年からの働き方改革を見据え、必要な体制整備など、早期からの検討が必要である。

2 患者サービスの向上について

新病院への移転に伴い、患者から多くの要望が寄せられており、それらの全てについて対応できるものではないということは理解する。だが、対応可能な要望についてはスピード感を持って対応し、対応が困難な要望については、患者等の納得感を得ることが重要であるため、説明を尽くすなど、丁寧な対応されるよう留意していただきたい。

3 地域の医療機関（かかりつけ医等）との機能分担・連携

地域の医療機関（かかりつけ医等）との機能分担・連携に向けた取組について、地域の医療機関から患者を紹介してもらうための病院の取組がまだ十分とは言えない。新規患者の紹介は経営の観点からも非常に重要であるため、これまで以上に積極的な取組を実施してもらいたい。

4 人事給与制度について

人事給与制度の構築スケジュールについては、これまでも計画から遅れて実施しているものであることから、計画通りに進捗するようにしっかりと取り組んでももらいたい。

また、医療職の人事評価制度の導入は委託事業者の提案だけに頼ることなく、院内の医療職の意見をしっかりと聞き、職員の意欲向上につながるものとなるよう、実効性のある制度構築を目指してもらいたい。

5 収益の確保について

収益の確保について、対前年度との比較も重要ではあるが、予算と決算の比較も同様に重要である。平成30年度は新病院への移転があり、予算を立てる時点で織り込めていない要素もあったかと思うが、目標とした数値を達成できておらず、厳しい決算状況であることから、評価「2」が妥当であると判断する。

収益を確保するためには、新規の入院患者を増加させることが重要であり、そのためには、新規の外来患者を増加させる必要がある。今後は、新規の外来患者数及び各診療科別の経営分析についても示していただきたい。